

パネルディスカッション2：薬剤師にどこまで任せてもらえるか

演題名	在宅での薬に関する問題点を解決するための薬剤師の役割 ～薬剤師在宅支援ネットワークの現状とこれからの課題～
-----	--

概要

保険薬局薬剤師は、最適かつ効率的で安全・安心な薬物療法を提供するため、処方箋に基づく調剤だけでなく、患者の状態に応じた服薬説明、副作用モニタリング等をおこなっている。在宅医療においては、患者の加齢による合併症と多剤併用傾向、身体機能低下に起因する服薬管理能力の低下など、薬に関する様々な問題点が起こりやすくなる。そのため、地域在宅医療におけるチーム医療への保険薬局薬剤師のさらなる参画が急務となっているが、在宅活動を行っている薬局の割合が低いのが現状である。

そのような現状を改善するために、浜松市薬剤師会では3年前に保険薬局薬剤師 在宅支援ネット（通称：P 浜ねっと）を組織した。①事務局を設置し、薬剤師の在宅訪問の依頼があった場合に、対応できる「担当薬剤師」「サポート薬剤師」を決める ②メーリングリストを用いて問題点などに対する意見交換をする ③在宅に関する知識や技術を向上させるため、定期的に研修会を開催する などが主な活動内容である。そして研修会等を通して医師、訪問看護師、ケアマネージャ等の他職種との連携をすすめた。

しかし、依然として多くの課題が残っている。最も大きな課題は地域の在宅医療スタッフに薬剤師の活動内容や必要性が認識されていない事である。既存の医師・ケアマネージャ・訪問看護師の連携の中に保険薬局薬剤師が入っていない。

実際の地域在宅医療において、安全・安心した薬物療法を継続するために、医師・薬剤師・患者の抱えている問題点は何なのか、今までの活動の中で確認した事が無かった。その問題点を薬剤師が解決していければ、地域医療の連携がさらに進むと考えられる。今回、浜松市内の在宅活動をしている医師にアンケート調査を行ったので、その結果を当日発表する。